

平成25年度 定期作況報告

(8月20日)

(畑作の部 気象概況訂正後)

地方独立行政法人
北海道立総合研究機構
中央農業試験場

水稻の部

水田農業G(岩見沢市)

I 気象概況

7月下旬:平均気温は平年より0.7℃高く、降水量は平年の96%、日照時間は平年の87%であり、寡照に経過した。

8月上旬:平均気温は平年より0.1℃低く、降水量は平年の48%、日照時間は平年の107%であり、小雨に経過した。

8月中旬:平均気温は平年より2.4℃高く、降水量は平年の121%、日照時間は平年の83%であり、高温、多雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より1.0℃高く、降水量は平年の92%、日照時間は平年の92%であり、高温に経過した。

7月下旬～8月中旬気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	26.0	25.7	0.3	27.5	27.7	△ 0.2	28.3	26.6	1.7	27.3	26.7	0.6
最低気温(℃)	18.1	17.2	0.9	19.2	19.2	0.0	21.7	18.3	3.4	19.7	18.2	1.5
平均気温(℃)	21.5	20.8	0.7	22.7	22.8	△ 0.1	24.3	21.9	2.4	22.8	21.8	1.0
降水量(mm)	28.0	29.3	△ 1.3	19.5	40.8	△ 21.3	70.0	58.0	12.0	117.5	128.1	△ 10.6
日照時間(hr)	50.8	58.2	△ 7.4	59.8	55.9	3.9	43.8	52.9	△ 9.1	154.4	167.0	△ 12.6

注)データは「アメダス岩見沢」を使用し、平年値は平成15～24年の10ヶ年平均値。

表中の気温は期間内の平均を示し、降水量と日照時間は期間内の積算値を示した。

II 作 況

5月20日 やや不良

事由:播種は平年並の4月18日に行った。播種日からやや低温に経過したため、出芽始めまでに日数を要し、播種後7日目に出芽揃となった。その後も平年を下回る気温および日照時間で経過したため、苗の生育は緩慢であった。移植はほぼ平年並の5月20日に行った。

移植時における苗は、茎数は「きらら397」、「ななつぼし」ともに平年並であった。葉数は「きらら397」が3.1枚、「ななつぼし」が2.8枚で、それぞれ平年に比べ0.2枚、0.4枚少なかった。草丈はそれぞれ9.7cm、9.4cmで平年比92%、89%と下回った。地上部乾物重はそれぞれ1.85g、1.80gで、平年比84%、79%であり、苗の充実度(地上部乾物重/草丈)はそれぞれ平年比91%、89%と、平年を下回った。すなわち、苗は平年に比べ葉数、草丈ともに少なく、乾物重、充実度も劣る、不十分な生育に留まった。

以上により、5月20日時点の作況は、やや不良である。

6月20日 やや良

事由:移植直後の5月5半旬が低温、寡照に経過したこと、その後は高温に経過したものの6月1日までの期間に風の強い日が多かったことから、平年に比べ活着にやや時間を要し、初期分けつの発生が遅れた。しかし、6月上・中旬は高温・多照に経過したことから、生育は回復し、さらに促進された。分けつの発生も旺盛となった。6月20日における草丈は、平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ113%、122%と平年を上回り、主稈葉数はそれぞれ平年より0.8、0.7葉多かった。茎数もそれぞれ118%、101%と平年並から上回った。

以上により、6月20日時点の作況は、やや良である。

7月20日 平年並

事由:6月下旬は低温に経過したものの、7月上旬以降は高温、多照に推移したことから、幼穂形成期は、平年対比で「きらら397」が5日、「ななつぼし」が6日いずれも早く、止葉始は両品種ともに7日早かった。そのため、7月20日時点でいずれの品種も最高分けつ期、止葉期を過ぎており、茎数は、「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ103%、91%と平年並から下回り、止葉葉数も平年並からやや下回った。草丈は、平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ107%、108%と上回った。

以上により、7月20日時点の作況は、平年並である。

8月20日 平年並

事由:7月下旬はやや高温に推移し、出穂期は、平年対比で「きらら397」が8日、「ななつぼし」が7日いずれも早かった。稈長は、平年対比で「きらら397」、「ななつぼし」がそれぞれ98%、102%と平年並で、穂長は両品種とも103%とやや長かった。穂数は、平年対比で「きらら397」が110%、「ななつぼし」が98%と、平年並から上回った。

以上により、8月20日時点の作況は、平年並である。

項目	品種名・ 苗種	きらら397 中苗			ななつぼし 中苗			ゆめぴりか 中苗(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年 (前4ヶ年)	比較	
播種期	(月.日)	4.18	4.18	0	4.18	4.18	0	4.18	4.18	0
移植期	(月.日)	5.20	5.21	△ 1	5.20	5.21	△ 1	5.20	5.20	0
幼穂形成期	(月.日)	7.02	7.07	△ 5	6.29	7.05	△ 6	6.30	7.05	△ 5
止葉始	(月.日)	7.14	7.21	△ 7	7.11	7.18	△ 7	7.12	7.17	△ 5
出穂期	(月.日)	7.26	8.03	△ 8	7.25	8.01	△ 7	7.24	7.31	△ 7
成熟期	(月.日)		9.23			9.20			9.18	
穂揃日数	(日)	6.0	5.8	0.2	6.0	6.2	△ 0.2	6.0	6.5	△ 0.5
登熟日数	(日)		51			50			49	
生育日数	(日)		158			155			153	
移植時地上部乾物重(g/100本)		1.85	2.19	△ 0.34	1.80	2.27	△ 0.47	1.84	2.19	△ 0.35
草丈 (cm)	移植時	9.7	10.5	△ 0.8	9.4	10.6	△ 1.2	10.2	10.6	△ 0.4
	6月20日	27.1	23.9	3.2	29.8	24.5	5.3	30.9	26.2	4.7
	7月20日	65.1	60.7	4.4	71.7	66.3	5.4	74.8	68.3	6.5
茎数 (移植時:本/個体) (その他:本/m ²)	移植時	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0	1.0	1.0	0.0
	6月20日	340	288	52	295	292	3	355	322	33
	7月20日	805	782	23	733	808	△ 75	853	833	20
主稈 葉数 (枚)	移植時	3.1	3.3	△ 0.2	2.8	3.2	△ 0.4	3.0	3.2	△ 0.2
	6月20日	7.5	6.7	0.8	7.3	6.6	0.7	7.7	7.0	0.7
	7月20日	11.0	10.6	0.4	10.2	10.2	0.0	10.4	10.7	△ 0.3
	止葉	11.0	11.0	0.0	10.2	10.4	△ 0.2	10.4	10.8	△ 0.4
稈長	(cm)	64.4	65.4	△ 1.0	71.8	70.2	1.6	69.3	68.6	0.7
穂長	(cm)	17.0	16.5	0.5	17.0	16.5	0.5	17.4	17.1	0.3
穂数	(本/m ²)	738	668	70	703	716	△ 13	798	718	80
一穂粒数	(粒)		48.2			54.3			43.8	
m ² 当粒数	(百粒)		322			389			314	
稔実歩合	(%)		89.5			85.9			91.0	
登熟歩合	(%)		81.2			77.8			82.3	
籾摺歩合	(%)		76.3			76.4			76.1	
屑米歩合	(%)		7.3			7.5			6.7	
千粒重	(g)		22.9			21.8			22.7	
わら重	(kg/a)		62.0			69.9			63.2	
精籾重	(kg/a)		75.2			77.1			72.8	
精玄米重	(kg/a)		57.4			58.9			55.4	
収量平年対比	(%)		100			100			100	
検査等級			2上			2上			2上	

注1)「きらら397」の平年値は前7ヶ年中、平成20年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注2)「ななつぼし」の平年値は前7ヶ年中、平成23年(最豊)、19年(最凶)を除く5ヶ年平均。

注3)平成21年より「ゆめぴりか」(中苗紙筒)の調査を開始した。

注4)「ほしのゆめ」(中苗紙筒)の調査は、平成24年で中止した。

注5)耕種概要

土 壤 : 細粒グライ土

施 肥 : 高度化成472全層施肥 N-P₂O₅-K₂O=8.0-9.7-6.9 kg/10a

播 種 量 : 中苗紙筒=180cc/箱 栽植密度 : 30×13.3cm 25株/m² 4本植え

移植方法 : 手植え 反 復 : 2

注6)刈り取り面積は一区3.6m²、精籾重、精玄米重は水分15%換算値を、篩目は1.9mmを使用した。

畑作の部

平成25年8月作況
(赤字下線が訂正部分)

作物G(長沼町)

I 気象概況

7月下旬:平均気温は平年より0.5℃高く、降水量は平年の53%、日照時間は平年の68%であり、少雨、寡照に経過した。

8月上旬:平均気温は平年より0.3℃低く、降水量は平年の54%、日照時間は平年の87%であり、少雨、寡照に経過した。

8月中旬:平均気温は平年より2.0℃高く、降水量は平年の154%、日照時間は平年の67%であり、高温、多雨、寡照に経過した。

以上、1ヶ月を通じ平均気温は平年より0.8℃高く、降水量は平年の91%、日照時間は平年の74%であり、寡照に経過した。

7月下旬～8月中旬気象表

項目	7月下旬			8月上旬			8月中旬			平均(合計)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
最高気温(℃)	25.8	25.3	0.5	27.0	27.3	△0.3	28.0	26.3	1.7	26.9	26.3	0.6
最低気温(℃)	17.5	16.5	1.0	18.5	18.7	△0.2	20.6	17.8	2.8	18.8	17.6	1.2
平均気温(℃)	20.8	20.3	0.5	22.0	22.3	△0.3	23.5	21.5	2.0	22.1	21.3	0.8
降水量(mm)	18.5	34.9	△16.4	22.5	41.8	△19.3	71.0	46.1	24.9	112.0	122.8	△10.8
降水日数(日)	5.0	1.4	3.6	2.0	1.9	0.1	6.0	2.2	3.8	13.0	5.5	7.5
日照時間(hr)	<u>34.6</u>	<u>50.7</u>	<u>△16.1</u>	<u>43.2</u>	<u>49.9</u>	<u>△6.7</u>	<u>30.6</u>	<u>45.9</u>	<u>△15.3</u>	<u>108.4</u>	<u>146.5</u>	<u>△38.1</u>

注1) 気象データはマメダス中央農試本場。欠測値および明らかな異常値はアメダス長沼で補正。

注2) 平年値は過去10年間の平均値。

注3) 最高、最低、平均気温は期間内の平均値、降水量、降水日数、日照時間は期間内の積算値。

注4) 降水日数は、24時間降水量が0.5mm以上をカウント

注5) △は減を示す。

1. 秋まき小麦(平成24年播種)

平成24年9月20日作況: 平年並

事由: 播種期は9月20日で平年より3日遅いが、安定した越冬のために必要な生育の確保には問題が無い播種時期である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成24年10月20日作況: 平年並

事由: 播種期は平年より3日遅かったが、その後、好天と適度な降雨に恵まれたため出芽は良好で、出芽期は平年より1日遅い9月27日であった。10月上旬も気温が平年より高く推移したため生育は順調で、10月20日現在で草丈は平年を上回り、茎数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

平成25年5月20日作況: やや不良

事由: 越冬前の生育は順調で、越冬前茎数は平年並であった。根雪終(融雪剤散布)は平年より8日遅い4月8日で、積雪期間は平年より22日長い141日であった。雪腐病による冬損程度は平年並で、越冬後の茎数は平年並であった。4月中旬以降、低温に推移したため5月20日現在で茎数は平年並であるが、草丈は平年を下回り、生育も遅れている。

以上により、現在の作況はやや不良である。

平成25年6月20日作況: やや不良

事由: 5月下旬から6月上旬までの降水量が少なく、やや干ばつ気味となった。平年より高温に推移しているため生育の遅れは回復しつつあるが、出穂期は平年より3日遅い6月11日であった。6月20日現在で平年より草丈がやや短く、茎数はやや少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

平成25年7月20日作況: やや不良

事由: 6月下旬以降、降水量は平年より少なく、干ばつ気味となった。7月上旬は高温に推移したため登熟が進み、成熟期は平年より2日早い7月20日であり、登熟期間は平年より5日短かった。成熟期における稈長はやや短く、穂長は平年並で穂数は少ない。

以上により、現在の作況はやや不良である。

平成25年8月20日作況: 不良

事由: 成熟期における穂数は平年より少なく、子実重は平年比85%と低収であった。

以上により、現在の作況は不良である。

項目 \ 年次	品種名	きたほなみ		
		本年	平年	比較
播種期	(H24.月.日)	9.20	9.17	3
出芽期	(H24.月.日)	9.27	9.26	1
出穂期	(H25.月.日)	6.11	6.8	3
成熟期	(H25.月.日)	7.20	7.22	△ 2
冬損程度	(0:無~5:甚)	0.5	1.0	△ 0.5
草丈 (cm)	H24.10.20	21.8	17.0	4.8
	H25.5.20	33.2	45.0	△ 11.8
	H25.6.20	94.7	101.0	△ 6.3
茎数 (本/m ²)	H24.10.20	575	589	△ 14
	越冬前(11月)	1236	1256	△ 20
	越冬後(4月)	1883	1825	58
	H25.5.20	1451	1457	△ 6
	H25.6.20	785	856	△ 71
成熟期における	稈長 (cm)	86.9	92.0	△ 5.1
	穂長 (cm)	9.0	9.0	△ 0.0
	穂数 (本/m ²)	687	788	△ 101
倒伏程度	(0:無~5:甚)	0.0	1.0	△ 1.0
子実重	(kg/10a)	638	755	△ 117
容積重	(g/l)	818	803	14.6
千粒重	(g)	37.6	38.0	△ 0.4
品質	(等級)		2等	
子実重平年対比	(%)	85	100	△ 15

注1) 平年値:前7か年中、平成20年(最凶)、平成19年(最豊)を除く5か年平均(収穫年度)。

注2) △は平年より早、短、少を表す。

注3) 倒伏程度:成熟期における倒伏程度。

2. 春まき小麦

5月20日作況:不良

事由:融雪剤使用圃場の根雪終は平年より8日遅い4月8日であった。播種期は平年より5日遅い4月22日となり、4月下旬~5月上旬は低温・寡照で推移したため、出芽期は平年より9日遅い5月9日となった。出芽後も5月中旬は低温・寡照で推移し生育が緩慢となったため、草丈および茎数は平年を下回り、両品種とも分けつは発生していない。

以上により、現在の作況は不良である。

6月20日作況:やや不良

事由:5月下旬から6月中旬は高温で推移して生育の遅れはほぼ回復し、出穂期は1,2日の遅れに止まると予想される。茎数は平年より多いが、今後無効化すると考えられる。さらに6月中旬にまとまった降水があるまでやや干ばつ気味となったため、草丈は平年より短い。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日作況:やや不良

事由:出穂期は平年並であったが、6月下旬から7月中旬が少雨に経過したため茎の無効化が進んだ。穂長は平年並であるが、稈長が平年よりやや短く、穂数は平年の90%と少なく、遅れ穂も多く観察される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

8月20日作況:不良

事由:成熟期は平年並であり、登熟日数も平年並となったが、稈長と穂数は平年を下回り、生育が小出来となった。千粒重も平年を下回った。このため子実重は平年比80%と、平年を大きく下回った。

以上により、現在の作況は不良である。

項目 \ 年次	品種名	春よ恋			はるきらり(参考)		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	4.22	4.17	5	4.22	4.17	5
出芽期	(月.日)	5.09	4.30	9	5.09	4.30	9
出穂期	(月.日)	6.21	6.20	1	6.19	6.18	1
成熟期	(月.日)	8.01	8.01	0	8.01	8.02	△ 1
草丈 (cm)	5月20日	11.5	20.9	△ 9.4	12.2	23.1	△ 10.9
	6月20日	68	82	△ 14	67	80	△ 13
茎数 (本/m ²)	5月20日	330	601	△ 271	339	627	△ 288
	6月20日	864	755	109	840	695	145
7月20日 または 成熟期 の	稈長 (cm)	90	95	△ 5	85	94	△ 9
	穂長 (cm)	8.4	8.5	△ 0.1	7.3	8.0	△ 0.7
	穂数 (本/m ²)	481	534	△ 53	480	520	△ 40
子実重	(kg/10a)	409	510	△ 101	363	501	△ 138
千粒重	(g)	38.8	39.9	△ 1.1	42.5	42.8	△ 0.3
リットル重	(g)	811	799	12	807	803	4
品質	(等級)		2			2	
子実重平年対比	(%)	80	100	△ 20	73	100	△ 27

注) 平年値は前7カ年中、平成23年(最凶)、平成24年(最豊)を除く5カ年平均。

「はるきらり」は前6カ年平均。

リットル重は1リットル升による測定。

3. 大豆

6月20日 平年並

事由：播種期は平年と同日の5月22日であり、出芽期も平年と同日であった。主茎長が平年よりやや長く、主茎節数は概ね平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である

7月20日 平年並

事由：「トヨムスメ」の開花期は平年並であった。分枝数は平年並からやや多いが、主茎長は平年よりやや短く、主茎節数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日 やや良

事由：「スズマル」の開花期は平年より2日早かった。主茎長は平年よりやや短い、主茎節数は平年並で分枝数は平年よりやや多く、着莢数は平年比107～111%と多かった。

以上により、現在の作況はやや良である。

品種名 項目 \ 年次		トヨムスメ			スズマル		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.22	5.22	0	5.22	5.22	0
出芽期	(月.日)	6.03	6.03	0	6.02	6.02	0
開花期	(月.日)	7.14	7.15	△ 1	7.21	7.23	△ 2
成熟期	(月.日)		9.27			9.29	
主茎長 (cm)	6月20日	13.3	11.8	1.5	9.9	8.4	1.5
	7月20日	45.2	50.6	△ 5.4	34.7	41.5	△ 6.8
	8月20日	49.1	58.3	△ 9.2	57.7	63.0	△ 5.3
	9月20日		57.9			63.7	
	成熟期		57.6			64.6	
主茎節数 (節)	6月20日	3.3	3.1	0.2	3.6	3.3	0.3
	7月20日	9.3	9.7	△ 0.4	11.4	11.7	△ 0.3
	8月20日	9.7	10.0	△ 0.3	13.6	14.2	△ 0.6
	9月20日		10.0			13.7	
	成熟期		10.0			14.0	
分枝数 (本/株)	7月20日	7.2	6.0	1.2	8.2	8.7	△ 0.5
	8月20日	8.0	6.6	1.4	12.1	11.0	1.1
	9月20日		6.3			10.4	
	成熟期		6.0			10.0	
着莢数 (莢/株)	8月20日	73.8	66.3	7.5	148.4	138.5	9.9
	9月20日		61.4			124.3	
	成熟期		61.1			124.0	
一莢内粒数		1.79			2.42		
子実重 (kg/10a)		372			345		
百粒重 (g)		41.1			15.0		
屑粒率 (%)		2.4			1.6		
品質 (等級)		3中			2中		
子実重平年対比 (%)			100			100	

注) 平年値は前7か年中、平成21年(最凶)、20年(最豊)を除く5か年平均。

4. 小豆

6月20日作況 平年並

事由：播種期は平年より3日遅い5月28日であったが、その後、好天に恵まれたため、出芽期は平年より1日遅い6月12日であった。現在のところ、主茎長が平年並であり、主茎節数はやや多い。

以上により、現在の作況は平年並である。

7月20日作況 平年並

事由：6月下旬以降の降雨は少なく、7月に入り夏日が続き、干ばつ気味に推移した。このため、主茎長は平年を下回ったが、開花期が平年より1日早い7月22日であり、主茎節数と分枝数は平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況：不良

事由：主茎節数が平年よりやや多いものの、主茎長は平年を下回り、分枝数も少なく、個体全体としての生育量が少ない。上位節の莢が少なく、着莢数は平年を大きく下回っている。

以上により、現在の作況は不良である。

品種名 項目 \ 年次		エリモショウズ		
		本年	平年	比較
播種期	(月.日)	5.28	5.25	3
出芽期	(月.日)	6.12	6.11	1
開花期	(月.日)	7.22	7.23	△ 1
成熟期	(月.日)		9.04	
主茎長 (cm)	6月20日	3.8	3.7	0.1
	7月20日	21.3	24.3	△ 3.0
	8月20日	49.7	65.4	△ 15.7
	成熟期		65.0	
主茎節数 (節)	6月20日	1.9	1.5	0.4
	7月20日	9.2	9.3	△ 0.1
	8月20日	14.4	13.4	1.0
	成熟期		13.4	
分枝数 (本/株)	7月20日	4.5	4.4	0.1
	8月20日	4.0	4.6	△ 0.6
	成熟期		4.5	
着莢数 (莢/株)	8月20日	31.5	55.6	△ 24.1
	成熟期		53.9	
一莢内粒数			5.94	
子実重	(kg/10a)		291	
百粒重	(g)		12.4	
屑粒率	(%)		2.9	
品質	(等級)		3下	
子実重平年対比	(%)		100	

注1) 平年値は前7カ年中、平成20年(最豊)、平成18年(最凶)を除く5カ年平均。

注2) 子実重および百粒重は子実水分15%に補正後の数値。

5. ばれいしょ

5月20日作況：やや不良

事由：本年の融雪剤無散布圃場の根雪終は平年より6日遅い4月11日であったが、平年より少雨であったことから植付期は平年より5日早い4月24日であった。植付け後、4月下旬から5月中旬は低温で推移したため、萌芽の遅延が予想される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

6月20日作況：やや不良

事由：萌芽期は平年より8日遅い5月30日となった。5月下旬から高温で推移したため生育はほぼ回復したが、茎長はやや短く、開花始も遅れが予想される。

以上により、現在の作況はやや不良である。

7月20日作況：平年並

事由：開花始は平年より4日遅い6月25日であったが、7月上旬からの高温・多照により生育は回復してきており、現在のところ茎長、茎数とも平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

8月20日作況：平年並

事由：8月20日現在では枯凋期に達していない。1株当たり上いも数は平年よりやや少なく、上いも平均一個重がやや重いため、上いも重は平年並みである。でん粉価も平年並である。

以上により、現在の作況は平年並である。

項目 \ 年次		男爵薯		
		本年	平年	比較
植付期	(月.日)	4.24	4.29	△ 5
萌芽期	(月.日)	5.30	5.22	8
開花始	(月.日)	6.25	6.21	4
枯凋期	(月.日)		8.21	
茎長	6月20日	29.5	34.8	△ 5.3
(cm)	7月20日	48.4	46.8	1.6
茎数	6月20日	4.6	4.6	0.0
(本/株)	7月20日	4.3	4.4	△ 0.1
8月20日における				
上いも数	(個/株)	11.0	11.7	△ 0.7
上いも平均一個重	(g)	97	92	5
上いも重	(kg/10a)	4741	4734	8
でん粉価	(%)	14.7	14.6	0.1
枯凋期における				
上いも数	(個/株)		12.2	
上いも平均一個重	(g)		88	
上いも重	(kg/10a)		4751	
中以上いも重	(kg/10a)		3976	
でん粉価	(%)		14.7	
上いも重平年対比	(%)		100	
中以上いも重	〃 (%)		100	
でん粉価	〃 (%)		100	

注) 平年値は前7か年中、平成18年(最凶)、19年(最豊)を除く5か年平均。

「上いも」は20g/個以上、「中以上いも」は60g/個以上